

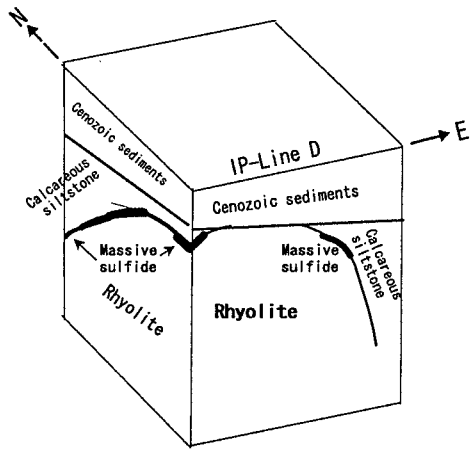
第5章 結論及び提言

5-1 結論

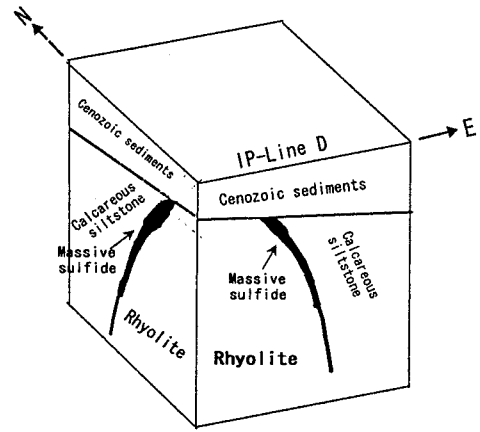
各種物理探査の結果などから判断して、MJTK-IP-1 地区の地質構造と鉍化帯の状況は、次の二通りの可能性が考えられる。

	可能性 1	可能性 2
地質構造 鉍化帯	地区中央部の IP 測線 No. 8 付近を中心に、高密度で磁性をもつ火成岩（磁硫鉄鉍が鉍染した流紋岩？）が分布する。 その周囲に鉍化帯が存在。	地区中央部に急傾斜の塊状～層状の大規模な硫化物鉍床が存在する。南側が下盤（流紋岩）で、北側が上盤（泥質岩）と推定される。
IP 異常	北側を中心に火成岩の半周を IP 異常部（高充電率部）が取り巻くように分布し、火成岩に付随する鉍化帯や鉍染帯に対応する。	IP 異常部（高充電率部）は必ずしも鉍床の位置と対応しないが、その周囲を IP 異常が取り囲む。
比抵抗	深部で火成岩は高比抵抗。深度 147m で低比抵抗部が火成岩の外縁部に分布。	浅部で、鉍床の周囲に、相対的な高比抵抗が囲む傾向が窺われる。深部では、鉍床と比抵抗分布の対応が明瞭でない。
磁気分布	中央の正負の磁気異常は火成岩に対応。	中央の正負の磁気異常は鉍床に対応。
重力分布	中央の高重力部は、火成岩に対応する。	中央の高重力部は、鉍床によく対応する。

「可能性 1」と「可能性 2」は共に鉍化帯の存在を想定しており、Hajar 鉍床など本地域周辺に分布する磁硫鉄鉍を伴う硫化物鉍床に関連すると思われるので、火成岩は鉍床下盤に相当する流紋岩と考えられる。Fig. I-5-1 にそのモデル図を示す。



可能性 1



可能性 2

Fig. I-5-1 Geological and mineralization Model of MJTK-IP-1 area

5-2 次期調査への提言

前項の「可能性1」と「可能性2」はいずれも鉱化帯の存在を前提としているが、現段階ではどちらの可能性も否定できない。

従って、以下のボーリング調査を実施して地下状況を解明して結論を得るとともに、鉱化帯の性状を把握することが望ましい。Table I-5-1 にボーリング計画をまとめた。

Table I-5-1 Proposed drilling

ボーリング名	MJTK-1	MJTK-2
位置	IP法B測線のNo.14測点付近	IP法C測線のNo.8測点付近
摘要	垂直掘削	南方に向けた70°の傾斜掘削
主要な対象	「可能性1」で想定される流紋岩の東翼部に認められるIP異常（高充電率）部および低比抵抗部。 硫化物鉱床または鉱化帯が賦存する可能性。	「可能性2」で想定される流紋岩北翼部の、強い磁気異常と重力異常。 大規模な硫化物鉱床が賦存する可能性。

これらのMJTK-1とMJTK-2について、モデル図上(Fig. I-5-2)に加えて以下に示す。

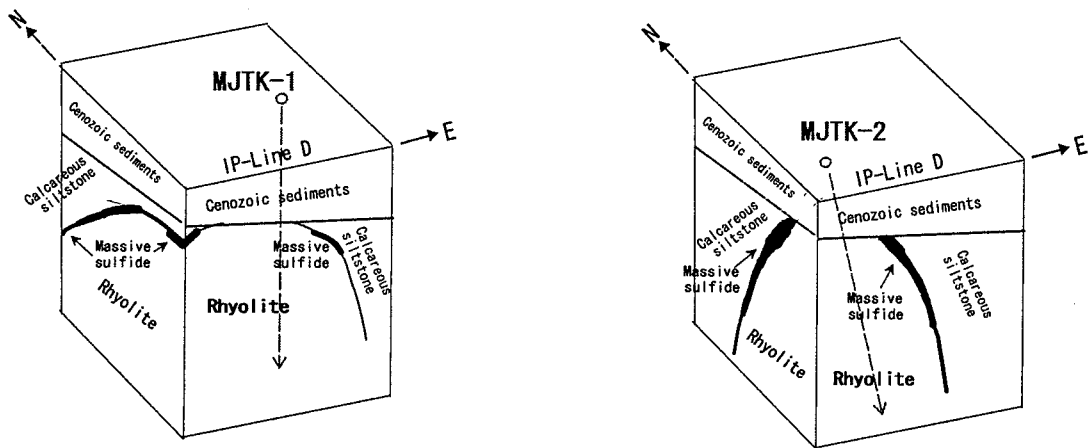


Fig. I-5-2 Concepts of MJTK-1 and MJTK-2

MJTK-1は、新期堆積物を通過した後、暫時古生層泥質岩（石灰質シルト岩）を掘削し、高IPに対応する鉱化帯と下盤流紋岩に到達すると期待できる。

MJTK-2は、新期堆積物を通過した後、若干、古生層泥質岩（石灰質シルト岩）を掘削した後、磁気と重力の異常に対応する鉱体に到達すると期待できる。